活動レポート　地域産業研究会

総会特別講演

「豊かな自然と人の温もりを育む村づくり」島牧村長　藤澤　克

1．はじめに

地域産業研究会では、毎年の定期総会時に特別講演による研修会を行っている。

当研究会には地域活性化、エゾシカ、資源・環境・健康の3つの分科会がある。このうち地域活性化分科会には森林資源をテーマとしたグループがあり、南後志区域のブナ林の調査を行っている。

島牧村は南後志に位置し、昨年度からブナ林に関する調査を行っており、新年度においても地域を対象とした活動が予定されていることから地域のすばらしい自然の紹介や地域振興の方向などについて藤澤　克村長に講演をお願いしたものである。

講演はパワーポイントを使用し、目と耳の両方に訴えかける講演であった。当日、村長は、東京への出張を控えていたが、参加者からの沢山の質問に丁寧に答えて下さった。講演の最後の質問は、時間切れで終了状況となり、活発で熱心に聞き入る講演会であった。

2．講演の概要

1）島牧村の概要

島牧村は日本海側の南後志に位置し、札幌へは167 km、函館まで176 kmに位置している。道路は、海岸線の国道229号と北部で分岐し黒松内に至る道々美川黒松内線がある。その他の道路は、村内に国道から櫛の刃状に沢沿い山岳部に通じる道路である。

地域の総面積は437.26 km²で、全体の89%を山林が占め農地は0.9%（413 ha）、人口1,996人・世帯数808戸（平成17年国勢調査）、老齢人口（65歳以上）が35.2%を占めている。

地域の産業は、漁業を中心とした一次産業が26.8%、第二次産業24.3%、第三次産業48.9%となっている。村の財政規模は、約20億円で、歳入は地方交付税約14億、その他の財源が約6億（うち村税は約1億）で、歳出は商工、農林水産、土木の政策的支出が1.6億円である。

財政面の規模は、必ずしも大きくないが、知恵や工夫をした運営がなされている。

2）中学生が望む村の将来

藤澤村長は前職で教育長を歴任しており、小学生を都市体験に村費を用いて研修に行かせた事例や村内の山への中学1年生の登山など随所に教育面の取り組みの紹介があった。

島牧村の将来計画策定にあたっては、住民参加を強く意識した政策を展開しており、地域住民である中学生を対象とした村の将来像に対するアンケートを実施している。調査の質問項目は、「10年後、20年後の村がどのようになってほしいか」の質問に対する回答である。興味深い内容なので紹介する。

○いつまでも自然豊かで和やかな島牧村。
○食糧や水がいっぱいある村、エコな村、木や水を大切にする村、リサイクルができる村。
○災害などが少ない村。災害にすぐに対応できる村。
○地域の方々の交流が盛んになり、人と人との輪が

広くなっていく村。

○農業・漁業が盛んで島牧村の財政状態が安定している村。

○少しハイテクなところを取り入れた村。

○小さい子どもたちが安心して遊べる村、いじめゼロの村、仲間はずれのない村。

○スポーツが盛んなオリンピック選手が出るような村。

○お金など無駄遣いをしない村。

これらのアンケートの意向は後の項目で紹介するが、その大半が計画の中で具体化に取り組まれている。

3）村の明日に向けて

①少子高齢化への対応

先の島牧村の概要でも紹介したが、65 歳以上の老齢人口が 35.2%（平成 17 年国勢調査）と増加を続けている。ここでは、政策の方向を「量縮小型の新しい質整備、ないし質再生」への転換を踏まえ、「保健・医療・福祉」について質の向上を目指した地域に合った政策展開を目指している。

②雇用への対応

村の雇用は、漁業不振や公共事業抑制、行政改革等で悪化している。政策の課題として勤労所得を確保できる場の創造が重要で、雇用の確保とリンクさせた行政施策を進めている。地域の産業振興は、福祉関連や起業・創業や業態転換の支援、農林水産業の担い手育成、特産品の開発、交流人口の増加などの取り組みを展開している。

雇用の確保は、地域の産業振興と一体のもので協働や住民参加をキーとして着実な取り組みが展開されている。特に、藤澤村長は、IT などのソフトな分野も含めた地域資源を活用した産業振興や経済対策を熱く語られた。

③環境に配慮した村づくり

地域内には、豊かな自然資源があり、環境面に高い意識がある。政策の方向は、論議ばかりでなく出来ること、緊急を要することから具体的に取り組むこと。また、ひとりひとりの意識を高め、村民、事業者、行政が一体となって取り組んでいる。

藤澤村長は、海岸線の外国からのごみの問題と住民による取り組みを身近な取り組みとして紹介された。また、村を訪れる方のごみ処理の問題も知恵を出して解決しなければならない問題のようである。

④地方分権の流れの中で

地方分権や行政運営の効率化を目指した合併がさけばれているが、島牧村は地形的な要件等で困難な面が多いようである。

地域の方針は、小さな村だからこその「顔が見える関係」などを活かし、他にない独自の協働による（村づくり連携、広域連携）方向を模索しているようである。

⑤世界につながる村へ

島牧村では、平成 20 年度に全村全域に光ケーブルを整備して、地上デジタル放送・BS デジタル TV 放送の再受信や、IP 電話サービス・情報告知を行って村民の福祉向上を図るほか、この施設の一部を電気通信事業者に貸し出すことで希望する高速インターネットの提供を受けることができるサービスを提供しようとしている。

このソフト基盤の整備は、住民の情報取得に関する生活面の向上とともに、保健・医療・福祉・教育、生涯学習、産業など広範な村づくりに活用することを目指したものである。

資料の記載は僅かであるが、村長の頭の中には、将来の具体的な姿が描かれているようである。これは推察であるが「世界につながる村」は、単に情報の利便性を受け取る事だけでなく、情報を発信して

村づくりを進める過疎地域型の情報通信技術活用を意識しているようである。

4）村づくりの理念

島牧村の村づくりの理念は、次のようである。

島牧が島牧であるために

資源を守り　活かし　育む村づくり

島牧村の資源は、実に多くを有している。講演会で頂いたガイドには、村内に3つの温泉(宮内温泉、千走川温泉、モッタ海岸温泉）日本滝百選と北海道自然百選に選ばれた狩場･茂津多道立公園にある「飛龍　賀老の滝」、ブナ原生林や貴重な高山植物、渓流がみられる狩場山、大平山、自然と親しむことができるキャンプ場、自然休養林、変化にとんだ海岸景観など盛りだくさんである。

食べられるものは、あわび、うに、ホタテ、ホッケなどの海産物や加工品、ふき、わらび、竹の子などの山菜がある。また、村長の情報では蜂蜜は絶品とのこと、これらの商品は村内にある温泉・旅館・民宿、14箇所でも食べられるし、村内にある道の駅「よってけ！島牧」等の店でも求めることができる。

村内の資源は、自然や食べ物だけではない、史跡等の歴史遺産や文化、地域の人々も重要な地域資源である。

5）めざす村の姿

島牧村が「めざす村の姿」の次のようである。

豊かな自然と人の温もりを育む村

〝島牧スローライフ〟

●島牧に住んでいるからこそ可能な新しい暮らし

〝島牧の人づくり〟

●次代を担い希望の源となる島牧の人づくり

今回の講演を聞いて感じた島牧村の村づくりの思いは、地域の住民、自然、文化、産業を大切にする思いである。すべての政策や計画に共通しているテーマなのかもしれない。

6）村づくりの体系

村づくりの体系は、村づくり理念とめざす姿を具体化する基本目標として次の5つの項目が掲げられ、その内容が定められている。村づくりの柱としての基本目標は、次の5項目である。

〇みんなが支えあう村
〇豊かな海を守る村
〇健康で人にやさしい村
〇安心して暮らせる村
〇活力いっぱいの村

7）計画推進のために

計画の推進のための基本的方向として次の4つの項目を心がけ政策を展開するとしている。

〇村民の立場に立つ
〇わかりやすい
〇無駄を省き効果を上げる
〇交流と学習の充実

3．おわりに

藤澤　克村長は、まるでセールスマンのようである。島牧村の沢山の魅力が伝わってきた。島牧村にとって地域の産業の強化や働く場と所得の確保は、村にとっても大きなテーマである。そういう意味で、村の魅力を伝え多くの方を村に迎えることも重要な村長の職務なのかもしれない。島牧村は広い土地と資源に恵まれた村で、この村ならではのさまざまな工夫を教えて頂いた。

地域産業研究会の地域活性化分科会では、島牧村を中心とした南後志地域を対象に平成21年度の分科会活動を行うことを予定している。今回の特別講演会は、このさきがけとして島牧村の状況を知る良い機会となった。都市に住む者の目線では、更に違う角度から島牧村の魅力が見えるかもしれない。研究会活動がこれを継起としてさらに発展し、良い交流や連携の機会となることを期待している。

（文責：地域産業研究会幹事長　須川　清一）